

# Newsletter for JADR

## I. 第96回 IADR 学術大会 (2018 年度 IADR, London, UK) に参加して

JADR 会長 山崎 和久

(新潟大学大学院医歯学総合研究科口腔保健学分野)

JADR 会員の皆様におかれましては益々ご活躍のことと存じます。本稿を執筆しているのは IADR ロンドン大会を終えて間もない8月初旬ですが、日本では7月中旬以降、全国的に猛暑が続いておりました。このニュースレターが皆様のお手元に届くころには秋風も吹き始めているかもしれませんが、夏の暑さで体も弱っていることと想像いたします。体調管理には十分配慮していただきたいと思います。

7月24日から7月28日まで第96回 IADR General Session が英国ロンドンで開催されました。前々回のソウル大会と比べると、前回のサンフランシスコ大会同様、会場では大変多くの JADR 会員の皆様をお見掛けしました。JADR の会務を預かる立場としては大変喜ばしかったのですが、開催地による参加者数の変動が会員数の変動に直結する問題を改めて認識した次第です。英国を含むヨーロッパ各地も記録的な猛暑に襲われ、ロンドンでも35度を超える日もありましたが、会場内では外の暑さに負けないほどの熱気あふれる議論が交わされていたように思います。

今回の IADR ではとりわけ JADR 会員の活躍が目立ちました。前 JADR 会長でもある広島大学の高田隆先生と新潟大学の小野高裕先生が Distinguished Scientist Award を受賞されました。また、東京医科歯科大学の小野卓史先生が IADR/AADR William J. Gies Award を受賞されました。3先生以外にも JADR 会員の表彰が発表されておりました。また、今回3名の若手研究者が Hatton Award Competition に日本代表として参加しま

した。非常にレベルの高い国内予選を勝ち抜いて本選に臨みましたが、惜しくも入賞を逃してしまいました。発表のスキルは国内審査において審査員も舌を巻くほど高かっただけに、今回だけでなく、これまでの本選参加者からフィードバックをしてもらい、今後のためにしっかりと検証を行う必要があるのではないかと考えられました。

Hatton Award Competition は各 division の会員数に応じて本選参加枠が決められます。JADR は昨年まで4名の枠がありましたが、本年は会員数が足りず3名になってしまいました。JADR の会員数は頭打ちどころか減少傾向にあります。一方、IADR のアジア・太平洋連合の会員数は大きく増加し、北米部に迫る勢いです。特に中国の会員数増加は著しく、数年のうちに日本を抜いてアメリカに次いで第2位になることは間違いありません。中国は研究者の人口と資金力に物を言わせ世界における科学技術分野での存在感を高めています。今や日本はほとんどの分野で中国の後塵を拝しています。いずれオーラルサイエンスにおいてもそうなってしまうのではないかと危惧します。

JADR のオーラルサイエンスにおける質的貢献は、改めてここに書くまでもなく非常に大きいものがあります。毎年のように各賞に JADR 会員が選ばれることからそのことが伺えます。質だけでなく量的にも大きくなって IADR における日本のプレゼンスを一層高める必要があります。そのためにはどうすればよいのか、悩みは尽きません。

## II. 第96回IADR学術大会 (2018年度IADR, London, UK) 報告

### 1. 第96回IADR総会・学術大会に参加して (Dental Materials)

山口 哲

大阪大学大学院歯学研究科  
顎口腔機能再建学講座 (歯科理工学教室)

2018年7月25日から28日にわたり、ロンドンで第96回IADR総会・学術大会が開催されました。ロンドンの気温は、例年の平均気温より高く、30度を超えることもありましたが、会場内はどの部屋も空調が整っており、参加しやすい環境でした。会場は、ロンドン郊外のテムズ川北岸に位置するExCeL London Convention Centerで、ヒースロー空港とロンドン・シティ空港からアクセスが可能でした。ロンドン市街からは結構距離がありましたが、会場から徒歩圏内にホテルが3つあり、私はこのうちの一つに宿泊したため、学会参加に不便を感じることはありませんでした。

IADR全体の演題数はシンポジウムやハンズオンワークショップなども含めると合計3573題で、私が所属するDental Materials Groupの演題数は、口頭発表が114題、ポスター発表が198題でした。英国でのテロ事件発生の多さから、ビザの審査が厳しくなったこともあり、参加者が少なくなることも予想されていましたが、韓国で開催された第94回IADR総会・学術大会における同分野の演題数が合計で108題であったことと比べると、約3倍の発表数で、大変活気に満ち溢れていました。

Dental Materials Groupの口頭発表は、金属(1)、セラミックス(2)、高分子(4)、接着材・合着材(2)、材料の生体適合性と生物学的影響(5)、器材・機器(2)、審美性(1)の比率で各セッションに分かれて行われ、インプラントの表面改質、CAD/CAM冠の長期耐久性や接着能の評価、非侵襲での材料観察を可能にするOptical Coherent Tomographyの応用、新規材料を応用した骨の再生・再建や臨床応用例などのテーマで活発な議論が繰り広げられました。また、メーカーが主体のIndustry Sponsored Symposiumが前回のサンフランシスコ大会よりも目立って増加し、日本からは松風社が1つのスロットを担当して、当講座の今里教授もシンポジストとして講演を行いました。

25日の夕方に開催されたDental Materials GroupのReceptionは、会場の西側出口を出てすぐのFox@ExCeLというバーで開催されました。2012年に私が留学したニューヨーク大学で共に研究を行った旧友達と再会し、現在進行中の研究についての意見交換や新たな人脈の形成もでき、非常に有意義な時間を過ごすことができました。26日夕方には、GC社のサポートによる恒例のJapan Night Receptionが開催され、IADR会長

のAngus Walls教授をはじめ、国内外の著名な研究者が多数参加して大いに盛り上がり、ここでも友人の輪を広げることができました。IADRは、最新の研究の動向の把握とヒューマンネットワークづくりに大いに役立つ機会であり、日本からさらに多くの若手研究者がIADRに参加することを期待したいと感じた4日間でした。

### 2. 第96回IADR総会・学術大会 Bernard Sarnat Award/IADR Craniofacial Biology award competitionに参加して

紙本 裕幸

(東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科  
顎顔面矯正学分野)

2018年7月25日から28日の4日間にわたり、ロンドンのエクセルロンドン展示場にて開催された96th IADR General session and exhibitionでのBernard Sarnat Award/IADR Craniofacial Biology award competitionに参加しましたのでご報告させていただきます。

Bernard Sarnat award competitionは大会初日の25日午前中に開催されました。事前に抄録による選考が行われ、本選ではシニア部門が6名、ジュニア部門は4名の合計10名でポスタープレゼンテーションを行いました。欧米諸国のみならず、中国やシンガポールといったアジア諸国からの発表が多かった印象をうけました。発表と審査は非公開で行われ、発表者1人あたり3人の審査員の前で8-10分間のポスター発表後、数分間の質疑応答を行いました。

私は、"Relaxin Accelerates Rat Mid-palatal Suture Expansion and Subsequent Bone Formation"という題名で発表しました。リラキシンはインスリン様ペプチドホルモンの一種で、周産期に骨盤の恥骨結合を弛緩させることで広く知られています。我々の研究グループはリラキシンの骨代謝に対する影響について報告してきましたが、今回の研究は、ラット口蓋正中縫合急速側方拡大モデルを用いリラキシンの縫合拡大時における作用について解析を行いました。質疑応答では装置の設計、薬剤の投与方法、拡大後保定の方法、将来的に臨床応用する際の問題点やリラキシンの骨代謝における主要な受容体は何かなど多くの質問やご意見をいただきました。全員の審査終了後1時間程度、発表者同士で自由に討論する時間が設けられ、お互いの研究について紹介しました。

選考結果は翌日のCraniofacial biology groupのbusiness meetingにて発表され、シンガポール国立大学から報告された、Mesenchymal stem cell (MSC) exosomeの顎関節における疼痛の重症度および下顎頭軟骨の変性に対する影響について疾患

モデルマウスを用い解析を行った研究がシニア部門の最優秀賞を受賞しました。本大会で国内外の研究者の方と意見交換を行い新たに多くの知見を得ることができたため、これらを今後の研究の発展にいかしていきたいと考えております。

最後になりましたが、このような貴重な機会を与えてくださった東京医科歯科大学顎顔面矯正学分野 森山啓司教授をはじめ、同分野医局員の先生方へ心より感謝申し上げます。

### 3. 第96回 IADR London 大会に参加して

西山 弘崇

(昭和大学歯学部歯科補綴学講座)

2018年7月25日から28日にイギリスのロンドンで開催された第96回 IADR London 大会に参加しましたので報告させていただきます。

羽田空港から Heathrow 空港まで約12時間の長距離フライトではありましたが、初めて参加する国際学会に胸が躍っていました。イギリスの首都ロンドンといえば、ビッグベンやバッキンガム宮殿、大英博物館など観光地としても有名で、実際多くの観光客で賑わっていました。情緒あふれる建造物に囲まれる中で、車やロードバイクの交通量の多さなど、人のエネルギーを感じる街並みが印象的でした。例年この時期は気候的に過ごしやすいロンドンですが、学会期間中は非常に気温が高く、東京とほとんど変わらないように感じました。

学会会場は、様々な国からの多くの参加者で賑わっており、日本からの参加者も多かったように思います。私が参加させて頂いた学会2日目のポスターセッション Prosthodontics Research – Intra- & Extra-oral Scanning and CAD-CAM Technologies/Denture Cleaning Studies では計11題の発表演題がありました。私は、「Fully Digital Workflow for Removable Partial Denture Fabrication」というタイトルで、歯列および欠損部顎堤の印象採得から義歯製作までの一連のワークフローをデジタル化することに挑戦した内容を発表させて頂きました。ポスターセッションでは、75分間という限られた時間の中、会場のいたるところで参加者たちの活発なディスカッションが行われ、会場は熱気に包まれていました。私も海外の先生方と交流することで、英会話の重要性はもちろんですが、改めて伝えることの難しさと大切さを痛感しました。しかしながら、質問内容を理解することができても相手に理解されるような回答ができずに悔しい思いをした反面、私の研究に対して「This report is very interesting!」と言って頂けたことに感動すら覚えました。今回、発表の機会を頂いたことで自分の研究に改めて向き合い、世界中から集まった研究者の方々と意見を交換することができ多くの刺激を受けました。この経験を糧に、今後も新たなチャレンジを世界に発信したいと考えております。私は今回の IADR London 大会が初めて参加した国際学会でありましたが、今まで参加してこなかったこと

を後悔するほどに有意義な学会であったと感じており、今後も機会を作ってぜひ参加していきたいと思っております。

最後になりましたが、このような機会を与えてくださった昭和大学歯学部歯科補綴学講座の馬場一美教授、本研究に対してご指導頂きました共同研究者の先生方に心より御礼申し上げます。

### 4. 第96回国際歯科研究学会参加報告書

大森 友花

(昭和大学歯学部高齢者歯科学講座)

2018年7月25日から28日まで、英国ロンドンのエクセルコンベンションセンターにて行われていた第96回国際歯科研究学会に参加いたしましたことをご報告させていただきます。

本学会では世界各国から最前線の歯科医療に関する知識が集まり、各分野で今後の歯科医療の発展を確信させられる活発な議論が行われておりました。

様々な研究内容が取り上げられていましたが、我々の研究分野である「stress & strain」もまた、多くの国が共有するテーマとして扱われていました。

同じ分野の研究をされている各国の先生方からの質問は、今後の研究に活かすべく新しい視点との出会いの機会となり、国境を越えての意見の交換や、研究の共有の価値と重要性も再認識いたしました。

また、国際レベルの学会に参加した経験は、日本の歯科医療を客観的にみる機会ともなりました。例として、昨今日本で盛んに取り上げられている研究テーマでありながらも、他国では未開拓分野、研究が発展途上であるテーマも多く存在し、更には、特定の分野における日本の基礎研究水準の高さも他国と相対的に見ることにより気付かされました。

臨床研究と並行して基礎研究も重要視していくことは、今後の日本の歯科医療の国際レベルでの強みとなり、それは国際単位での歯科医療の発展への貢献に繋がっていくと感じております。

その責任と使命を背負う一人の歯科医師として、日本の歯科医療業界の一員として、国際社会に貢献する形を模索し、医療の発展のため日々の努力を続けていく決意を新たにしました。次第でございます。

### 5. 第96回 IADR London 大会に参加して

緒方 謙一

(九州大学大学院歯学研究院口腔顎顔面病態学講座  
顎顔面腫瘍制御学分野)

2018年7月25日～28日の4日間にわたり、イギリスのロ

ンドンで開催されました 96th General session & Exhibition に参加し、ポスター発表をいたしました。ご存知のように、イギリスは 2016 年 6 月 23 日にイギリスの欧州連合離脱是非を問う国民投票が実施されその結果、僅差をもって離脱賛成派が過半数を占めたため、欧州連合からのイギリス脱退（通称：ブレグジット、Brexit）が決定したことは記憶に新しいかと思えます。また、今回の学会会場である EcCel London Convention Center は、イギリスのロンドン・ニューアム特別区にあるコンベンションセンターです。ロンドンのウォーターフロント再開発地区であるドックランズ内にあり、ロイヤル・ビクトリア・ドックの北岸に建っています。2012 年のロンドン五輪では柔道、卓球、ボクシング、フェンシング、テコンドー、レスリング、ウエイトリフティングの会場として供用されています。会場内はとても広く、私がポスター発表をした会場は企業展示場も兼ねていました。そのため、人も多くあらゆる場所で英語が飛び交っており、とても活気がある場所でした。

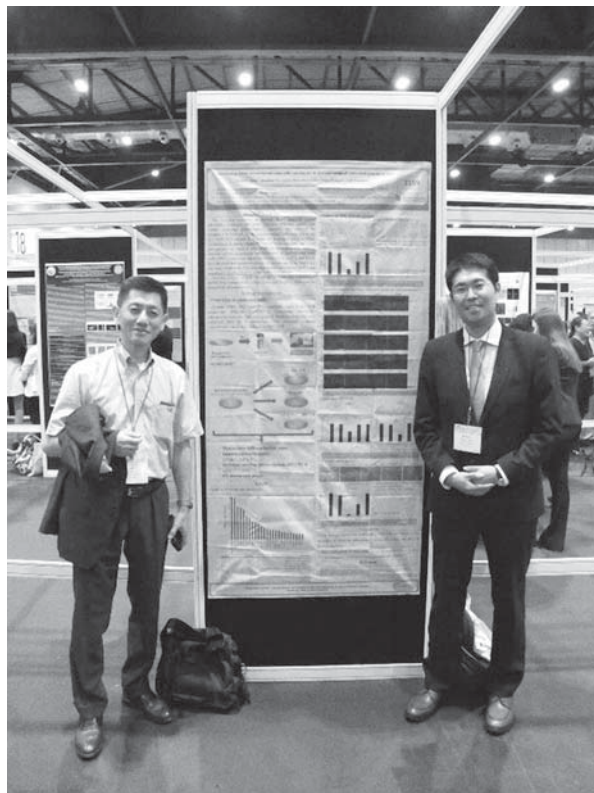
今回は、口頭 802 題、ポスター 2310 題、計 3112 題の演題数があり、シンポジウム 83 題、ハンズオン 14 題等、内容豊富で、総登録者数 5225 名と大変多くの参加登録があり盛会でした。私の研究分野である Stem Cell Research のセッションは口頭・ポスター発表を含めて、計 190 演題の発表がありました。私もその中の一人としてポスター発表をしました。普段は基礎系の学会や再生医療系の学会に参加することが多いですが、今回初めて IADR で発表の機会を得ることができました。歯科ならではの視点や世界中のエキスパート達と英語でディス

カッションすることができ、今後の実験の参考になる知見を得られたことはとても有意義であったと思っています。

学会後には、JADR と GC による Japan Night が開催され、約 440 名が参加し、学会に参加している日本人の学会関係のみならず海外の学会関係者とも交流ができ、大変盛況な会でした。

また、学会の合間には、ロンドン市内も見学できました。特に、先ごろウィリアム王子とキャサリン妃の婚礼がとり行われたウエストミンスター寺院は、これまでのイギリスの歴史を想起させるような荘厳かつ厳粛な雰囲気でした。食事もフィッシュ&チップスしかないイメージでしたが、さまざまなお店が並んでいました。特に、日本食レストラン（すし屋やラーメン店）は、現地の人にも大人気のようでした。

最後になりますが、このような機会を与えてくださった中村誠司教授をはじめとする、九州大学大学院歯学研究院口腔顎顔面病態学講座顎顔面腫瘍制御学分野の先生方、関係者の皆様に心より御礼を申し上げます。2018 年 9 月から私はアメリカのテキサス大学に留学する機会を得て、そこで日夜研究に没頭しております。慣れない環境での生活かつ英語によるコミュニケーションに悪戦苦闘しております。これから国際学会に参加される皆さんには是非英語を勉強して学会に臨まれることをおすすめします。簡単ではありますが、今回の IADR の報告とさせていただきます。



IADR ポスター会場にて  
(左：当科中村誠司教授 右：筆者)

## Ⅲ. IADR hatton Award本選を終えて

### 1. IADR Hatton award 最終選考を終えて

庄司 あゆみ

(東京医科歯科大学顎顔面矯正学分野)

この度、ロンドンにおいて2018年7月25日から28日に開催された第96回IADR学術大会において、IADR/Hatton Award最終選考に参加させて頂きましたこと、大変光栄に思います。選考委員会の先生方や大会運営に携わって下さった方々に深く感謝致します。

発表させて頂いた演題“Osteocyte-derived RANKL is a key regulator of orthodontic tooth movement”は、矯正力負荷に応答した破骨細胞による骨吸収とそれに伴う歯の移動を制御する主要な細胞が、骨細胞であることを生体レベルで明らかにした研究です。

矯正歯科治療では、破骨細胞による骨吸収が生じることで歯の移動が起こります。したがって、破骨細胞分化因子(RANKL)の発現誘導が歯の移動の鍵となりますが、歯周組織においてどの細胞が矯正学的な歯の移動におけるRANKL産生源であるかは不明でした。

今回我々は、歯周組織細胞の新規分画法を確立し、各画分のRANKL発現を評価しました。その結果、骨細胞がRANKLの主要な産生源であり、骨細胞特異的RANKL欠損マウスでは歯の移動量および破骨細胞の出現が有意に減少することを見出しました。歯根膜細胞においてもRANKLの発現が検出されましたが、歯根膜細胞特異的RANKL欠損マウスでは、歯の移動及び破骨細胞数に有意な変化を認めませんでした。以上の結果より、歯根膜細胞ではなく骨細胞が歯の移動を制御する主要な細胞であることが示されました。

本研究結果は、矯正力に伴う破骨細胞分化誘導の詳細な制御機構を解明するための一助となり、今後の矯正歯科治療における新規治療法開発の分子基盤の確立につながることを期待しております。

残念ながら入賞することはできませんでしたが、このような機会を頂き、自分の研究を見つめ直すとともに今後の研究課題を学ぶことができました。他の候補者の方々と交流する機会は少なかったものの、各国での研究環境や歯科治療の現状を知ることができ、また同年代の方々が高い志を持ち真摯に研究に励み、世界を舞台に活躍している姿を目の当たりにし、大変刺激を受けました。ポスター発表の際には、矯正学的歯の移動を研究されている先生だけでなく、海外の様々な分野の先生方から貴重なアドバイスやご質問を頂戴し、また私の論文を引用して下さったという先生とも実際にディスカッションをさせて頂いたり、臨場感のある貴重な経験をさせて頂き、大変勉強になりました。

この経験を糧として、今後も更に研鑽を重ねて参りたいと考えております。

末筆ですが、本選考会を迎えるに当たり、このような研究機会を与えて下さりご指導を頂きました東京医科歯科大学顎顔面矯正学分野の森山啓司教授、分子情報伝達学分野 中島友紀教授、小野岳人助教、ならびにご協力頂きました諸先生方に、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

### 2. 第96回IADR London大会 Hatton Award 最終選考を終えて

吉本 怜子

(九州大学大学院歯学府口腔機能修復学講座歯周病学分野)

2018年7月24日～28日にロンドンにて開催された第96回IADR学術大会に、IADR Hatton Award 候補者として選出いただき参加の機会に恵まれました。前年度の選考過程よりお世話になりましたJADRの先生方への感謝とともに、この度の貴重な体験をご報告致します。

Hatton Award は日本国内審査の段階から、独特の形式と限られた時間という制約の中で、研究の意義と成果を如何に正確かつ魅力的に伝えることができるかが試されるものでした。ロンドンでの最終選考は、2名の審査員によるやや厳格な雰囲気の中での審査でした。私は口腔粘膜上皮において口腔の温かな温度で活性化する温度感受性イオンチャネル(TRPV4: transient receptor potential vanilloid 4)が機能し、粘膜上皮機能の調節に貢献していることを明らかにした研究成果を発表しました。審査員からは*in vivo*でのイオンチャネルの活性化動態や関連薬剤の臨床的应用にフォーカスした質問があり、“interesting”とのコメントもいただきましたが、残念ながら入賞には至りませんでした。他の候補者の研究はポスター発表で見ることができました。Senior category (Basic Science)入賞者の一人ともお話することができ、研究デザインの綿密さに感銘を受けるとともに、口腔粘膜上皮の特徴的な形態や機能を追っているという面では興味を共有でき有意義なディスカッションができました。思い返せば彼は私の審査前後に会場の前でずっと発表の練習をしており、審査員に手渡すハンドアウトは大きな光沢紙に用意してあって、内容もさることながら準備のレベルも一段上であったのだな、と感じました。また、個人的な反省ですが、悪天候で行きのフライトが遅延し、審査に間に合わないというピンチに陥りました。結局航空券を買い直して出発し、なんとか審査時間に滑り込みましたが、余裕をもって現地に到着しておく必要性を痛感しました。

学会ではどのセッション会場も熱心な聴衆で一杯で、歯科

研究の裾野の広さと勢いを感じるものでした。また、ロンドンの伝統的な美しい街並みと、会場近辺の近代的な風景（特にロープウェイが近未来的でした）、そこに例年ない暑さも重なり、忘れることのできない思い出となりました。この度の体験を自分の糧として、再びIADRで発表することを目標に、自分の興味を追求しながら研究に邁進していきたいと存じます。

最後になりましたが、このような機会を与えて下さいました九州大学歯周病学分野 西村英紀教授、口腔病理学分野 清島保教授、研究から発表に至るまで懇切にご指導下さいました佐賀大学医学部 城戸瑞穂教授に深く感謝申し上げます。

### 3. Hatton Awards 最終選考を終えて

閑 遥

(鹿児島大学歯学部歯科機能形態学講座)

2018年7月24日、ロンドンにて開催された第96回IADR Hatton Awardsの最終選考発表に参加させて頂きました。訪れるには最も良い時期であると聞いていたため、7月のロンドンはさぞかし涼しく過ごしやすいのだろう、と期待に胸躍らせておりましたが、颯爽と空港から一歩足を踏み出すと、照りつける太陽と熱気に襲われました。話によると、イギリスのみならず、ヨーロッパは数十年ぶりのヒートウェーブであったそうで、高温多湿の著しい鹿児島からやっと抜け出せると膨らませていた期待は、30度を超えた気温とクーラーの効いていない満員の地下鉄により打ち砕かれました。サウナの如き地下鉄に揺られ、暑さと人の多さに意識朦朧としておりました。飛行機に搭乗する前から心に張り付いていた緊張も些か解けていく様な心持が致しました。常々、「私はこう見えて神経が細いのです。」と周囲の先生方に声高に申し上げているのですが、どの際も、間をおかず一笑に付されます。会場

であるExCeL Londonに着き、最終選考発表を待つ間も、同様でありました。IADRへの参加は初めてであるということ、国際学会という高尚な場所でのアカデミックな発表も初めてであるということから、今迄に体験したことのない緊張を全身に感じておりましたが、周囲の先生方は、緊張を訴える私に対し、懐疑的な目を向けるのみでありました。終に名前を呼ばれ、発表会場である部屋に入りますと、あまり大きくはない空間に、巨大なスクリーン、スクリーンに向かい左手にステージと演台、右手の長机に審査員の先生がお二人いらっしゃいました。審査員の先生方は、「緊張しないで良いので、楽しみましょう。」と声をかけて下さいましたが、前申す通り、常ならず緊張していたためか、演台とマイクを全く蔑ろにしてしまうという失態を演じてしまいました。地声での発表であったにも関わらず、お二人の先生方は発表内容にとっても興味を持ってくださり、質疑応答も終了予定時刻を超えて行われました。練習の成果もあり、発表自体の出来には充足感を感じておりましたが、反して、質疑応答は反省点の多いものとなりました。専門的な単語が理解できない、相手の知りたい内容を正確に把握できない、わからない質問に対しての冷静な対応ができない等々、緊張した時やパニックになった時でもなんとか対応できるだろうと、過信しておりました自分の至らないところを存分に思い知る大変に貴重な経験となりました。その後も、27日のポスター発表で質問をくださった先生方や、発表後に言葉を交わしたJunior部門での他国の代表の先生方から、自身の反省や研究に対する姿勢など、多くのことを学ばせて頂きました。

最後になりましたが、このような素晴らしい機会を与えてくださった鹿児島大学歯学部歯科機能形態学 後藤哲哉教授、Hatton Awards国内選考での審査員の諸先生方、並びに研究発表のためご指導下さいました先生方に心より感謝申し上げます。

---

## IV. Council Meeting Report

JADR 会長 山崎 和久

(新潟大学大学院医歯学総合研究科口腔保健学分野)

ロンドンで開催された96回 IADR General Session において今里副会長、中村会計担当理事とともに Council Meeting に出席してまいりました。

Angus Wall 会長の挨拶に続き報告事項、討議事項、最後に恒例となった参加者によるフィードバックセッションが行われました。

報告事項では、まず、各 Region の代表から Regional report が報告されました。APR に関しては、Chinese division 会員数が 1000 名を超えたこと、region 全体の会員数が 3000 名を超え、北米にあと 100 名に迫る数になったこと、Japanese division における会員数減少に対する対策案に関することが報告されました。President report では 2019 年に Journal of Dental Research が発刊 100 周年、2020 年に IADR が設立 100 周年を迎え、様々な事業が計画されていることが報告されました。Executive Director Report では学生会員の数が増加しているが、その後正会員に移行させることを課題として挙げておりました。

議事では、予算案の承認に加え、昨年の Council report で会長職の選考が North American region や Pan European region に偏

っている現状について Region 毎のローテーションの導入を含めて議論がなされましたが、今回 JADR と大変繋がり深いソウル大学の Byung-Moo Min 教授を含むいずれも APR に所属する 3 名の次期副会長候補者が承認されました。また、JDR Clinical Translational Research 誌の編集長が Board member になることも承認されました。その後 FDI、WHO の代表より報告がありました。

最後に行われたフィードバックセッションでは IADR の mission statement について議論がなされました。執行部においてディスカッショングループごとに提出されたサマリーをもとに方向性が検討されることになります。

今回 3 つの division で会員数の大幅増加が達成され、執行部より感謝の意が表明されましたが、うち二つは General session の開催地（今回のロンドン: British division, 2021 年 中国四川: Chinese division）の division であり、2012 年にイグアスで開催された際にはブラジルの会員数が大幅に増加したもののその後は減少が続いており、一過性の増加にならないよう、抜本的な対策が求められる状況は変わっていないのではないかと感想を持ちました。我が国では大学におけるアカデミックポジションの数が減っており、学生会員から一般会員への移行の障害になっている状況があります。JADR 単体の努力では改善することが困難な課題が増えてきていることを改めて感じさせられた会議となりました。

## V. 第66回国際歯科研究学会日本部会 (JADR) 総会・学術大会開催のご案内

大会長 佐野 英彦

(北海道大学大学院歯学研究院口腔健康科学分野  
歯科保存学教室)

皆様にかかれましては益々清栄のこととお慶び申し上げます。平素より種々にわたりましてご高配を賜り、厚く御礼を申し上げます。

この度、第66回国際歯科研究学会日本部会総会・学術大会の大会長に推挙され、もとより微力ではございますが、本学術大会を少しでも実り多いものにするため全力でこの重責を果たす所存です。本学術大会は、“Back to the tangible - the symbiosis of basic research and clinical dentistry”をテーマに、平成30年11月17日(土)18日(日)の日程で、北海道大学歯学部にて開催させていただき運びとなりました。

臨床と基礎研究の架け橋である国際歯科研究学会 (IADR) における日本部会 (JADR) 総会・学術大会は、研究成果の臨床展開と臨床課題の問題提起が具体的に現れる場であります。かつて本学の前身である札幌農学校を卒業した新渡戸稲造は、「我、太平洋の橋とならん」と言葉を残し、のちに国際連盟の事務総長を務めるに至りました。今一度、臨床と基礎研究の架け橋となるような皆様の発表を期待しております。

大会開催時期の札幌では最低気温が平均零度と、一足早く冬の気配が感じられる季節となり、道内各地からは初雪の便りが聞かれるようになります。紅葉は既に盛りを過ぎる11月の北海道ですが、晩秋から初冬へと移り変わる大自然が楽しめる月です。そして冬の味覚を楽しむことができる季節でもあり、皆様の多数のご参加を期待しております。

末筆ながら、皆様の益々のご健勝をお祈り申し上げます。

会 期：2018年11月17日(土)～11月18日(日)

会 場：北海道大学 歯学部

〒060-8586 札幌市北区北13条西7丁目

大会テーマ：Back to the tangible - the symbiosis of basic research and clinical dentistry-

大 会 長：佐野 英彦

(北海道大学大学院歯学研究院口腔健康科学分野

歯科保存学教室)

準備委員長：星加 修平

(北海道大学大学院歯学研究院口腔健康科学分野

歯科保存学教室)

大会ウェブサイト：<http://jadr66.umin.jp>

基調講演 「The roles of cellular senescence in aging and cancer」

(老化とがんにおける細胞老化の役割)

座 長：佐野 英彦 (北海道大学大学院歯学研究院口腔健康科学分野 歯科保存学教室)

講演者：高橋 暁子 (がん研究所)

特別講演Ⅰ 「Factors related to the tooth retention and tooth loss in

Korean elderly adults aged 55 years and more」

座 長：今里 聡 (大阪大学大学院歯科研究科顎口腔機能再建学講 (理工学講座))

講演者：Prof. Jin-Bom Kim, Korean Division, IADR, Prof. Department of Preventive and Community Dentistry, School of Dentistry, Pusan National University, Yangsan, Korea)

特別講演Ⅱ 「Small Molecule Replacement Therapies Cure Craniofacial Defects in Mice.」

座 長：山崎 和久 (新潟大学大学院医歯学総合研究科口腔保健学分野)

講演者：Dr. Rena D'Souza

(President of IADR, University of Utah, Salt Lake City, Utah, USA.)

シンポジウムⅠ 「New Era of Oral Medicine」 (口腔内科学の新時代)

座 長：

中村 誠司 (九州大学大学院歯学研究院口腔顎顔面病態学講座顎顔面腫瘍制御学分野)

北川 善政 (北海道大学大学院歯学研究院口腔医学部門 口腔病態学講座)

講演者：



1) 「New insights into salivary gland disease associated with systemic diseases」

(全身疾患に関連する唾液腺疾患の新しい理解)

中村 誠司 (九州大学大学院歯学研究院口腔顎顔面病態学講座顎顔面腫瘍制御学分野)

2) 「The cutting edge of pemphigoid ~close relationship between dentists and dermatologists reveals the pathogenesis and a novel diagnostic method~」

(類天疱瘡の最前線~口腔診断内科と皮膚科の相互連携により見えてきた類天疱瘡の病態と新しい診断法~)

北川 善政 (北海道大学大学院歯学研究院口腔医学部門口腔病態学講座)

3) 「Burning mouth syndrome: Is it a neuropathic condition?」

(口腔灼熱症候群は神経障害性疼痛か?)

今村 佳樹 (日本大学歯学部口腔診断学講座)

4) 「Role of regenerative medicine in medical treatment」

(内科治療学的な再生医療)

日比 英晴 (名古屋大学大学院医学系研究科総合医学専攻頭頸部感覚器外科学講座)

シンポジウム II 「Current Topics of Prosthodontic Treatment using Partial Dentures」

座 長：横山 敦郎 (北海道大学大学院歯学研究院 口腔医学部門 口腔機能学講座)

講演者：

1) 「New Design Concept and Material Selection in Removable Partial Prosthodontics」

若林 則幸 (東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科部分床義歯補綴学)

2) 「Prognosis and Efficacy of Partial Denture Treatment」

横山 敦郎 (北海道大学大学院歯学研究院 口腔医学部門 口腔機能学講座)

3) 「Removable partial dentures supported by dental implants.」

古谷野 潔 (九州大学歯学部歯科補綴学第二講座)

シンポジウム III 「Frontiers of adhesive dentistry: new discoveries promise a bright future」

(接着歯学研究のフロンティア - 新しい発見と

目指すべき未来)

座 長：林 美加子 (大阪大学歯学部歯科保存学講座)

講演者：

1) 「Creating the “Super Tooth” by the adhesive technology」

(接着技術による “Super Tooth” の創出)

田上 順次 (東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科う蝕制御学分野)

2) 「Incoming bond strength evaluation - Change from quantitative examination to qualitative investigation -」

(これからの接着強さ評価 - 量的検証から質的検討への変化)

奈良 陽一郎 (日本歯科大学生命歯学部接着歯科学講座)

3) 「Adhesion to new CAD/CAM composite resin block」

(新しいCAD/CAMコンポジットレジンブロックに対する接着)

疋田 一洋 (北海道医療大学歯学部口腔機能修復・再建学系デジタル歯科医学分野)

シンポジウム IV 「Advances in Clinical Dentistry Resulting from Basic Science Discoveries -Lessons from Dental Materials Research」

座 長：今里 聡 (大阪大学大学院歯学研究科顎口腔機能再建学講座 (歯科理工学教室))

講演者：

1) 「Dental Composites - A True Disruptive Change in Dentistry」

Prof. Jack L. Ferracane

(Department of Restorative Dentistry Oregon Health & Science University, Oregon Health and Science University)

2) 「Can we trust the success of adhesive restorations to the bonded interface?」

Prof. Ricardo M. Carvalho

(Department of Oral Biological and Medical Sciences Faculty of Dentistry University of British Columbia)

3) 「Durability of Adhesive Bond and Clinical Success of Composite Restorations」

Prof. Masashi Miyazaki

(Department of Operative Dentistry Nihon University School of Dentistry)

事前参加登録締切：2018年10月12日(金)

## VI. 第 67 回 JADR 総会・学術大会（第 4 回 APR (Brisbane, Australia) 開催のご案内

JADR 会長 山崎 和久

(新潟大学大学院医歯学総合研究科口腔保健学分野)

第 67 回 JADR 総会・学術大会は、2019 年 11 月にオーストラリア、ブリスベン (Brisbane) で開催される第 4 回 IADR Asia Pacific Region (APR) 学術大会と併催で行われます。

今大会は、IADR Australia/New Zealand Division を host とし、Japanese Division, Korean Division, Chinese Division, IADR Southeast Asian Division, Indian Section, Mongolian Section, Pakistan Section の共催で行われるものです。国際色豊かな大会で、それぞれの Division, Section の年次総会もこの大会の中で行われます。この中で JADR は Asia Pacific Region の歯科医学研究の牽引役として期待されています。多数の会員の皆様の参加を得て大会を盛り上げたいと思います。奮ってのご参加を期待しております。

第 67 回 JADR 総会・学術大会

4th Meeting of IADR Asia/Pacific Region (APR) と併催

開催日時：2019 年 11 月 28 日 (木) ～ 30 日 (土)

開催場所：Brisbane, オーストラリア (詳細は未定)

主催：IADR Australia/New Zealand Division

## VII. 第 97 回 IADR 総会・学術大会 (2019 年度 IADR, Vancouver, BC, Canada) のご案内

会 期：2019 年 6 月 19 日 (水) ～ 22 日 (土)

会 場：Vancouver Convention Centre West Building

1055 Canada Pl, Vancouver, BC V6C 0C3, Canada

演題登録締切：2019 年 1 月 14 日 (月)

事前参加登録締切 (発表者)：2019 年 4 月 16 日 (火)

事前参加登録締切 (一般)：2019 年 5 月 1 日 (水)

## IADR/JADR 2019 年度会員更新および IADR 大会参加登録のご案内

日頃より IADR/JADR の運営にご理解とご協力を賜わり誠に有難うございます。

このたび、IADR 本部事務局より会員各位へ、2019 年度の会員更新依頼のご案内がお送りされる頃と存じます。

ご存じの通り、JADR は IADR の全支部の中で有数の会員数を擁する部会 (JADR) となって久しく、IADR/JADR 会員は、IADR における中心的な役割を担っていると IADR 本部にも認識されております。とくに、各専門分野の先生方には、IADR の組織する各 Research Group におきまして、格段のご活躍を頂いております。また、若手研究者のご活躍もめざましく、Hatton Award では、過去数回、JADR からの候補者が見事に First Prize に選ばれております。JADR は、このような IADR/JADR 会員の国際的な活動をサポートし、日本はもちろんのこと世界の歯学研究水準の発展に貢献していきたいと考えております。

つきましては、今後も、JADR の活動を維持・推進するため、IADR/JADR 会員資格をを継続していただきますよう、お願い申し上げます。

IADR/JADR2019 年度会員の更新方法は、下記の IADR サイトよりログインしていただき、お手続きください。

【IADR/JADR メンバーシップ更新ページ】

<https://www.iadr.org/IADR/Join-Renew>

会員を更新されますと、各種 Research Group や、本部主催の Award、ならびに年に1度開催されます General Session など様々な情報を得ることができます。

IADR を通じて、より多くの日本の先生方が国際的に活躍されますことをお祈りいたします。

国際歯科研究学会日本部会 (JADR)

会長 山崎 和久

【国際歯科研究学会日本部会 (JADR) 事務局】

〒 612-8082 京都市伏見区両替町 2-348-302

TEL:075-468-8772 FAX : 075-468-8773 E-mail : jadr@ac-square.co.jp

## CONTENTS

I. 第96回 IADR 学術大会 (2018年度 IADR, London, UK) に参加して 山崎 和久	1	I. Report of the 96th IADR General Session in London, UK Dr. Kazuhisa Yamazaki: JADR President	1
II. 第96回 IADR 学術大会 (2018年度 IADR, London, UK) 報告	2	II. Reports of the 96th IADR General Session in London, UK	2
1. 山口 哲	2	1. Dr. Satoshi Yamaguchi: Osaka Univ.	2
2. 紙本 裕幸	2	2. Dr. Hiroyuki Kamimoto: Tokyo Med. And Dent. Univ.	2
3. 西山 弘崇	3	3. Dr. Hirota Nishiyama: Showa Univ.	3
4. 大森 友花	3	4. Dr. Tomoka Omori: Showa Univ.	3
5. 緒方 謙一	3	5. Dr. Kennichi Ogata: Kyushu Univ.	3
III. IADR hatton Award 本選を終えて	5	III. 2018 IADR Unilever Hatton Competition & Awards	5
1. 庄司 あゆみ	5	1. Dr. Ayumi Shoji: Tokyo Med. And Dent. Univ.	5
2. 吉本 怜子	5	2. Dr. Reiko Yoshimoto: Kyushu Univ.	5
3. 関 遥	6	3. Dr. Haruka Seki: Kagoshima Univ.	6
IV. IADR Council Meeting 報告 山崎 和久	7	IV. Report of the IADR 2018 Council Meeting Dr. Kazuhisa Yamazaki: JADR President	7
V. 第66回 JADR 総会・学術大会開催のご案内	8	V. Announcement of the 66th JADR General Session	8
VI. 第67回 JADR 総会・学術大会 (第4回 APR (Brisbane, Australia) 開催のご案内)	10	VI. Announcement of the 67th JADR General Session (4th meeting of APR (Brisbane, Australia))	10
VII. 第97回 IADR 学術大会開催のご案内 (2019年度 IADR, Vancouver, BC, Canada) のご案内	10	VII. Announcement of the 97th IADR General Session in Vancouver, BC, Canada	10

## ●編集後記●

今回はロンドン大会に関する記事を中心にお送りします。日本からは3名の学生が Hatton Awards の本選に挑み、惜しくも受賞はなりませんでしたが、ここ数年の日本の若手の英語能力の高さには目を見張るものがあります。会場でも、積極的に質問をする光景をよく見かけ、日本の若手研究者のモチベーションの高さを感じることができました。ただ、アジア圏の元気な国々が積極的に IADR に関わろうとしていることも事実で、そういったディビジョンの会員数の増加はやはり顕著です。日本も負けじと、さらに努力しなければなりません。11月には、佐野英彦大会長のオリジナリティが随所に感じられる第66回大会が札幌で開催されます。会員の皆様の熱いソッションに触れられる大会となることを期待しております。